中学校学習指導要領　外国語

第2章各教科第9節外国語

第1　目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

第2　各言語の目標及び内容等

英語

1　目標

⑴　初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

⑵　初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

⑶　英語を読むことに慣れ親しみ，初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。

⑷　英語で書くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

2　内容

⑴　言語活動

英語を理解し，英語で表現できる実践的な運用能力を養うため，次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

ア　聞くこと

主として次の事項について指導する。

㋐　強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。

㋑　自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。

㋒　質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

㋓　話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。

㋔　まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。

イ　話すこと

主として次の事項について指導する。

㋐　強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。

㋑　自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。

㋒　聞いたり読んだりしたことなどについて，問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

㋓　つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

㋔　与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ　読むこと

主として次の事項について指導する。

㋐　文字や符号を識別し，正しく読むこと。

㋑　書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。

㋒　物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

㋓　伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。

㋔　話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ　書くこと

主として次の事項について指導する。

㋐　文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。

㋑　語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

㋒　聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。

㋓　身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。

㋔　自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

⑵　言語活動の取扱い

ア　3学年間を通じ指導に当たっては，次のような点に配慮するものとする。

㋐　実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに，⑶に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。

㋑　実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては，具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。

㋒　言語活動を行うに当たり，主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

〔言語の使用場面の例〕

a　特有の表現がよく使われる場面

・あいさつ・自己紹介・電話での応答・買物・道案内・旅行・食事など

b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活・学校での学習や活動・地域の行事など

〔言語の働きの例〕

a　コミュニケーションを円滑にする

・呼び掛ける・相づちをうつ・聞き直す・繰り返すなど

b　気持ちを伝える

・礼を言う・苦情を言う・褒める・謝るなど

c　情報を伝える

・説明する・報告する・発表する・描写するなど

d　考えや意図を伝える

・申し出る・約束する・意見を言う・賛成する・反対する・承諾する・断るなど

e　相手の行動を促す

・質問する・依頼する・招待するなど

イ　生徒の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては，次のような点に配慮するものとする。

㋐　第1学年における言語活動

小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ，身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際，自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

㋑　第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として，言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際，第1学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに，事実関係を伝えたり，物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

㋒　第3学年における言語活動

第2学年までの学習を基礎として，言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際，第1学年及び第2学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに，様々な考えや意見などの中からコミュニケーションが図れるような話題を取り上げること。

⑶　言語材料

⑴の言語活動は，以下に示す言語材料の中から，1の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。

ア　音声

(ア) 現代の標準的な発音
(イ) 語と語の連結による音変化
(ウ) 語，句，文における基本的な強勢
(エ) 文における基本的なイントネーション
(オ) 文における基本的な区切り
イ 文字及び符号
(ア) アルファベットの活字体の大文字及び小文字
(イ) 終止符，疑問符，コンマ，引用符，感嘆符など基本的な符号
ウ 語，連語及び慣用表現
(ア) 1,200語程度の語
(イ) in front of，a lot of，get up，look forなどの連語
(ウ) excuse me，I see，I'm sorry，thank you，you're welcome，for exampleなどの慣用表現
エ 文法事項
(ア) 文
a 単文，重文及び複文
b 肯定及び否定の平叙文
c 肯定及び否定の命令文
d 疑問文のうち，動詞で始まるもの，助動詞（can，do，mayなど）で始まるもの，orを含むもの及び疑問詞（how，what，when，where，which，who，whose，why）で始まるもの
(イ) 文構造
a ［主語＋動詞］
b ［主語＋動詞＋補語］のうち，
(a) 主語＋be動詞＋｛名詞／代名詞／形容詞｝
(b) 主語＋be動詞以外の動詞＋｛名詞／形容詞｝
c ［主語＋動詞＋目的語］のうち，
(a) 主語＋動詞＋｛名詞／代名詞／動名詞／to不定詞／how(など)to不定詞／thatで始まる節｝
(b) 主語＋動詞＋whatなどで始まる節
d ［主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語］のうち，
(a) 主語＋動詞＋間接目的語＋｛名詞／代名詞｝
(b) 主語＋動詞＋間接目的語＋how(など)to不定詞
e ［主語＋動詞＋目的語＋補語］のうち，
(a) 主語＋動詞＋目的語＋｛名詞／形容詞｝
f その他
(a) There＋be動詞＋～
(b) It＋be動詞＋～(＋for ～)＋to不定詞
(c) 主語＋tell，wantなど＋目的語＋to不定詞
(ウ) 代名詞
a 人称，指示，疑問，数量を表すもの
b 関係代名詞のうち，主格のthat，which，who及び目的格のthat，whichの制限的用法
(エ) 動詞の時制など
現在形，過去形，現在進行形，過去進行形，現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現
(オ) 形容詞及び副詞の比較変化
(カ) to不定詞
(キ) 動名詞
(ク) 現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法
(ケ) 受け身
(4) 言語材料の取扱い
ア 発音と綴りとを関連付けて指導すること。
イ 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
ウ (3)のエの文法事項の取扱いについては，用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し，実際に活用できるように指導すること。また，語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。
エ 英語の特質を理解させるために，関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること。
3 指導計画の作成と内容の取扱い
(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。
ア 各学校においては，生徒や地域の実態に応じて，学年ごとの目標を適切に定め，3学年間を通して英語の目標の実現を図るようにすること。
イ 2の(3)の言語材料については，学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。
ウ 音声指導に当たっては，日本語との違いに留意しながら，発音練習などを通して2の(3)のアに示された言語材料を継続して指導すること。
また，音声指導の補助として，必要に応じて発音表記を用いて指導することもできること。
エ 文字指導に当たっては，生徒の学習負担に配慮し筆記体を指導することもできること。
オ 語，連語及び慣用表現については，運用度の高いものを用い，活用することを通して定着を図るようにすること。
カ 辞書の使い方に慣れ，活用できるようにすること。
キ 生徒の実態や教材の内容などに応じて，コンピュータや情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用したり，ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たりなどすること。
また，ペアワーク，グループワークなどの学習形態を適宜工夫すること。
(2) 教材は，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成するため，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際，英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし，次の観点に配慮する必要がある。
ア 多様なものの見方や考え方を理解し，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに，言語や文化に対する関心を高め，これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
ウ 広い視野から国際理解を深め，国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うのに役立つこと。
その他の外国語
その他の外国語については，英語の目標及び内容等に準じて行うものとする。

第３ 指導計画の作成と内容の取扱い
1 小学校における外国語活動との関連に留意して，指導計画を適切に作成するものとする。
2 外国語科においては，英語を履修させることを原則とする。
3 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき，道徳の時間などとの関連を考慮しながら，第3章道徳の第2に示す内容について，外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。